

論文賞

第15回日本色彩学会論文賞を受賞して ～色に救われた私の人生～

Receiving a CSAJ Paper Award ~ My life saved by color ~

茂木 修一

Shuichi Mogi

宇都宮大学 工学研究科 システム創成工学専攻

Department of Systems Innovation Engineering, Graduate School of Engineering,
Utsunomiya University



この度は第15回日本色彩学会論文賞に対象となった論文である「Color Appearance of Small Stimuli Presented in Central and Near Peripheral Visual Fields」をご選出頂きありがとうございます。大変栄誉なことと感じましたし大変驚きました。何より純粋に今までお世話になっ

た方々に非常に喜んで頂けたことが自分の中ではとても嬉しく思いました。これもひとえに学業では阿山先生含め周りの先生方のご協力があったのことであり、周りのたくさんの方々のご理解とご協力があったのことだと思っております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

本研究の目的は、エレメンタルカラーネーミングとカテゴリカルカラーネーミングを用いて視野内の様々な場所に呈示された直径0.5°の小視野刺激の色の見えを調査し、実用に役立つデータを提供すると共に、2つの方法での応答間の関係から中心視と周辺視での高次色覚特性を明らかにすることです。55色のテスト刺激を、視野中心0°と垂直及び水平方向20°までの13か所各々に呈示し、2つの方法で被験者は3名で色の見え評価を行いました。色の見え評価の低下は上方呈示で最も顕著で、耳側呈示で最も穏やかになり、「赤の色名応答に必要なユニーク赤成分が0°で突出した以外は、2つの方法での応答間の関係は測定範囲全域でほぼ維持されました。

さて、この研究をなぜ行ったのか？という質問をよく色々な方々から質問されるのでこの場をお借りしてその経緯を説明させていただきます。そもそも私自身に問題があったのか原因はよくわからないのですが、2014年に突然適応障害と診断され会社で通常通り勤務することが困難な状況になっていました。丁度人生山あり谷あり谷底ありの谷底の時期で、よくお先真っ暗と言いますが本当に世の中が灰色に見えていたことをよく覚えています。ふと中学生の頃部活動でモノクロの模

様が描かれたコマを回すとなぜか色が現れる不思議な実験のことを思い出し、ネットで検索すると「ベンハムのコマ」という現象で人間の錯視だということがわかりました。もう一度あの頃のように無心になって研究を試してみたくなり、さっそく宇都宮大学の阿山先生に連絡したところ興味があるならとお誘いがあり、社会人ドクターとして会社に就業しながら阿山先生の元で2017年から2022年の3月までご指導頂くことになりました。

研究を始めた当初は右も左もわからない状態だったので大変苦労しました。いつも阿山先生がご年齢を感じさせないほど常にパワフルで大学の構内を毎日走り回るように生活しているものですから、当時の私は40台の半ばを過ぎてくよくよ思い悩んでいることがとても恥ずかしいことだと感じ、このままではいけないと思い直し、阿山先生の後ろ姿を必死で追いかけることにしました。ただ学問の道は自分が思っていた以上に大変難しく、今回の論文が完成するまでの過程において阿山先生から大変厳しい指導を受けるだけでなく、何度も研究で失敗しスタート地点に戻り挫折するといったことを繰り返して経験することになりました。そして、自分の中で何かが変わっていくのを肌で感じましたが、気づけば今まで自分が苦手としていた上司や偉い方に対する報告や、困ったら相談し協力を仰ぐといった基本的な課題解決手法が身に着いていたように思います。幸運にも同時期に会社に普通に就業出来るようになり、次第にですが本業の方でも結果が出せるようになっていきました。幸運は用意された心の中に宿るという言葉がありますが、諦めなければいつか結果がついてくるものだ実感しました。最後に、今回このような場を通し貴重な経験をさせて頂き誠にありがとうございました。今後も皆様のお役にたてるような研究開発が出来るよう日々精進して参りたいと思います。